



# 甲子園短大通信

甲子園短期大学 発行



学内成人式は、本学独自の行事で、昭和五十四年から実施されてお

一月十二日(金) 学院高校講堂において、甲子園学院理事長・学院長久米知子先生はじめ、ご来賓の方々のご臨席を賜り、「平成二十九年学内成人式」が執り行われました。

## 平成二十九年学内成人式

「建学の精神を柱として」

### 〔第一部〕

第一部の式典は、新成人の門出を全学を挙げて祝福する式であると同時に、卒業を控え社会に飛び立つとするとするII回生が、自らの責任と義務を再確認する誓いの場でもあります。

II回生は新成人の自覚を持ち引き締まった面持ちで式に臨みました。I回生は、成人となる先輩をお祝いするために参加し、厳粛な雰囲気の中で執り行われました。

早坂三郎学長から「社会人として生きていく基本は校訓三綱領です。周りの人たちと協力しながら、自分の力で人生を切り拓き、さらに成長していけることを期待しています。」と祝辞がありました。それぞ

れぞれの夢に向かうII回生にとって、温かい励ましの言葉となりました。それに応えて、学生代表として生活環境学科の山本かりんさんが、学内成人式へのお礼の言葉とともに、「成人としての自覚と責任を心に留め、本学での学びを基礎とし、自立した一人の女性として社会に貢献できよう歩んでいきたいと思いま

す。」と誓いの言葉を述べました。学院からの記念品として、台付袱紗がII回生全員に贈られ、幼児教育

### 〔第二部〕

保育学科の石田いづみさんが代表して受けとりました。



第二部は、株式会社モダン・ボーイズ最高執行責任者の竹中功氏をお招きし、「成人を迎える皆さんへグッドなコミュニケーションのススメ」と題して、講演会を行いました。大学卒業後に就職された吉本興業での広報マンとしての経験談では、芸人さんとのエピソードをユーモアいっぱい紹介されました。「笑い」については、人との関係を深めるだけでなく、医学的な研究でも心と身体を「健康」にする重要なエッセンスになっているということを教えていただきました。自分史を書くことや自己分析をすることに

ついて、その手法をQ&A形式で紹介され、自己理解や相手の気持ちに気づくことが、よりグッドなコミュニケーションにつながるということを実例に挙げて解説されました。講演の最後に、竹中氏は現代の社会では「考えること」が重視されていますが、人との関係において、そして人生を楽しく歩むために「感じること」をもっと大切にしてください。とのエールを送ってくださいました。

### 学内成人式に出席して

学生代表 山本かりん

学内成人式の第一部では、早坂学長先生からお祝いの言葉をいただきました。学長先生のお言葉は、これから社会に出る私たちの心に強く響きました。私は、II回生代表として「誓いの言葉」を述べました。何を述べるか考えている時にはまだ成人という実感はありませんでした。けれども、誓いの言葉を書き上げ、練習で何度も読んでいくうちに、成人としての自覚が湧いてきました。

第二部では、株式会社モダン・ボーイズ最高執行責任者の竹中功氏の講演をお聞きしました。コミュニケーションには自己覚知と相手を思いやる事が重要だと学ぶことができました。竹中氏のお話をお聞きして、今よりもう一段上のコミュニケーションを目標にしたいと思います。

人生の中の様々なお祝いごとの際はもちろんのこと、日常生活でも、両親や友人など周りの人たちに感謝の気持ちを忘れずに生きていきたいと思えます。



### 「作る・直す・工夫する」



特任教授 瀧上 凱令

私は三歳頃から小学六年の五月頃まで三重県の山村で過ごしました。その頃は物のない時代で、遊び道具は自分で作るしかありません。「下駄の上の卵」という井上ひさしの小説があります。この中に、石をぼろ布で包んでボールにし、棒切れをバットにして野球をする場面が出てきますが、私たちも同じことをしておりました。

冬にはそりを作りました。ホームセンターで適当な材料を買ってくるといったことはできません。まず山へ木を切りに行ったり、製材所で木切れをもらってきて、切ったり、割ったり、削ったりして材料を揃え、釘を打って作るという具合です。釣りは好きでしたが、釣り竿も自分で作るしかありません。山に竹を切りに行くと、枝を落し、火であぶって曲りを調節します。竹馬もよく作りました。

作るのが苦手で親に作ってもらっている子もいましたが、私は作ったり工夫したりするのが大好きでした。人よりよく飛ぶ竹トンボを作ったり、人よりよく得意でした。それにハンドルを付けたりもしました。ですから、物心ついたときからのこぎり、ナイフ、金づち、キリ、カンナといった大工道具を使っていました。そのせいで怪我

## My Favorites



が絶えず、左手には人差し指を中心に数か所の傷跡が今でも残っています。こういう子供時代の経験からか、ありあわせの物で工夫して、何かを作ったり直したりということが今でも大好きです。我が家にはそういうところや物がたくさんあります。たとえば、コウモリよけです。我が家の周りは夏になるとコウモリがたくさん飛び回ります。アブラコウモリ(イエコウモリ)という種類です。窓にはシャッターボックスにコウモリが入り込みます。糞をするのも困りますが、何の折に開け閉めしてコウモリを殺してしまつてはかわいそうなので、アルミ板を取り付けてコウモリが入らないようにしました。

また、お風呂のドアをありあわせの材料で修理しましたが、別の修理工事で来た職人さんが真剣な顔でそれを確かめ、「こんなことをされたら僕らの仕事がなくなっちゃう。」と笑っていたこともありました。短大では、手作りのマグカップ用コースター、コウモリよけ材料の残りで作った手作りの靴べらなどを使っております。鉛筆はナイフで削ります。こんなことから考えると、町の発明家か便利屋にでもなっていた方が良かったのかと思うことがあります。

### 伊勢志摩フィールドワーク研修 専門分野の視野を広める

二月二十一日(水)〜二月二十三日(金)までI回生はフィールドワーク研修として二泊三日で伊勢志摩へ出かけました。

一日目は、教職員に見送られ一路志摩へ向かいました。志摩スペイン村に到着し、研修まで自由時間を楽しみました。最初の研修「伊勢志摩バリアフリーツアーセンター講師による講習」では、障がいのある人や高齢者が伊勢志摩の旅を存分に楽しめるよう「行ける場所」より「行きたい場所へ」を合言葉とするセンターの活動についてお聞きし、学生たちは熱心にメモを取っていました。続いて「テーブルマナー講習」では、色彩や盛り付けも美しいスペイン料理をいただきながら、コース料理のマナーを学びました。

二日目の研修は、「ホスピタリティとおもてなし」と題し、おもてなしの心と表し方について演習を交えて学びました。その後、志摩自然学校では、「海女さんとの交流」「シエルクラフト」を体験しました。海女の方から漁や暮らしについてのお話を伺った後、貝殻やビーズ、真珠を使った創作体験を行いました。三日目は、鳥羽水族館で伊勢湾に生きている



る生物と、環境保護についての講義を受けました。学生たちは一人ひとりが環境保護のためにできることについて考えていました。最後の研修は伊勢神宮とおかげ横丁であり、それぞれの専門の視点から観察しました。学年全体での研修は学生にとって初めての経験で、交流が広がる良い機会となりました。この経験が、今後の学生生活に生かされることを願っています。

### ◆学友会役員決まる◆

平成二十九年十二月二十二日(金)に開催された学友会総会において、平成三十年度の学友会役員が、次のように承認されました。

- 会長 小畑 文乃 幼児教育保育学科
- 副会長 笹下アサキ 生活環境学科
- 総務 川原 優季 生活環境学科
- 総務 伊藤 結 幼児教育保育学科
- 書記 前原 茜里 幼児教育保育学科
- 会計 井上 晶子 生活環境学科

### 平成30年度 オープンキャンパス

3月27日	(火)
4月28日	(土)
5月27日	(日)
6月16日	(土)
7月8日	(日)
8月5日	(日)
8月25日	(土)
9月9日	(日)
大学祭	当日(10月を予定)

\*いずれも 10:00~13:00  
\*予約不要

### 甲子園短大通信 第84号

編集・発行 甲子園短期大学広報委員会  
〒663-8107 西宮市林町四一五  
TEL:079-8165111 FAX:079-8167910  
http://www.koshien-c.ac.jp

甲子園短期大学教育研究センター 講演会を開催

第一回



十一月十八日(土)に料理研究家の土井善晴氏に「世界の料理と和食」のテーマで講演していただきました。



現在の日本では、よそいきの「ハレ」と普段の「ケ」の差がなくなり、家庭料理は「ハレ」寄りです。味噌汁とご飯を土台にしたシンプルなお汁一菜に戻り、この時に肉を焼いたり、季節の料理を作ることで、楽しみと日常を区別する、これが和食のスタイルだと話されました。

第二回



十一月二十三日(祝)に絵本作家でイラストレーターの水田萌氏を講師に迎え、「夢みる力」のテーマで講演していただきました。



幼少期を過ぎた加西市や、今も暮らす京都の豊かな自然が、「夢みる力」である「想像力」を育んでくれた。「想像力」の有無で、人生の豊かさは違ってくる、とお話くださいました。館長を務める「京都市子育て支援総合センター」でもみらい館では、赤ちゃんの心の成長を育むために絵本の読み聞かせに取り組んでおり、参加された保護者の方へは「お膝に抱っこして、親子で同じ時間、同じページを見ること、」下手でもいいから大きな声で読んであげることをお願いしているそうです。

「絵本で知る世界の国々(FLAイン)」からのおくむの「展開

十一月十三日(月)〜十二月一日(金)まで短大図書館において、国際図書館連盟(IFLA)・International Federation of Library Associations and Institutions)の「絵本で世界を知ろうプロジェクト」により集められ、寄贈された四十三の国や地域の絵本三百六十五冊を国立国会図書館国際子ども図書館から借り受け、一般展示公開しました。



各国の図書館員に選ばれた絵本は欧米だけでなく、南米や中東、アフリカ大陸のものもあり、日本語に翻訳されていない珍しい絵本も多く含まれていました。直接手に取って読むことのできる貴重な機会に、来場者は五百名を超えました。開催期間中、学院幼稚園年長組の来場に合わせて、学院中・高校の加藤先生によるドイツ語の読み聞かせも行われました。

キャリアアップ研修会

九月三十日(土)に兵庫県研修事業助成を受け福祉・介護施設および保育園・幼稚園、認定子ども園などに勤める卒業生や関係者を対象に第十七回キャリアアップ研修会を実施しました。



「福祉に役立つ介護予防」身体の中から健康できれいにする支援」近年、腸内環境を改善し健康の維持・向上を目指す取り組みが注目されています。そのため、腸内環境に関係する食品の研究・製造にかかわっているフジッコ株式会社 研究開発部の小阪英樹氏を招き、高齢者およびすべての年代の人々が心身共に快適に過ごすための食の改善について、マーケティング部による試食も含めて講習していただきました。

卒業研究発表会

一月三十一日(水)にII回卒業研究履修者による論文や実技の発表が行われました。この日に向けて履修者は担当教員指導のもと、前期から準備に取り組みしてきました。



実技部門では昨年十二月に開催された書道展にて、八月の錬成会で制作した作品が展示されました。一月の発表ではパソコンを使用した電子紙芝居や日本の伝統手芸作品、子どもたちが手に取り遊べるタペストリー、ピアノ演奏、オリジナルメニューの開発&菓子の試食がありました。



また、今年度はI回生の授業成果発表会もありました。「園芸デザインII」では、テーマごとにテーブルコーディネートされた園芸実習場の草花による作品が飾られ、会場が華やきました。「幼児教育基礎演習B」

\* 教職員研修会の開催 \*

「保育内容言葉」からは、エプロンシアターや手袋シアターが展示され、可愛いらしい雰囲気のコナーもできました。卒業研究履修者は時間をかけて努力を重ね、無事に発表の日を迎え、拍手や称賛の声をいただきました。

本学では、すべての教職員を対象に、「学生支援研修会」を継続して行っています。これは、教員が授業内容や方法を改善し、向上させるための取り組みとしてのFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動と教職員全員が大学の教育研究活動の適切かつ効果的な運営を図るためのSD(スタッフ・ディベロップメント)活動の一環として位置づけているものです。今、大学には学生や社会のニーズに応える教育を行うために、さまざまなことが求められています。こうした要請に応えていくためには、多面的な取り組みが必要で、全教職員の協働・連携が前提となります。今年度は、「本学教育の展開および介護福祉士・保育士養成をめぐる動向」「教職課程の再課程認定」「障がいのある学生への合理的配慮および体制整備」「第3クルールの認証評価」「食・情報・園芸の分野における研究・教育」をテーマに研修会を実施しました。毎回、ほぼ全員の教職員が参加し、質疑応答も活発に行われました。今後も教職員の教育力・大学運営力を高め、学生支援に繋がられるよう、研修会を計画的に行うことにしています。

生活環境学科 資格取得の取り組み



フードコーディネーターは、食品メーカーで企画編集・情報整理・広告制作・イベント、外食産業ではメニュー提案、営業から企画まで総合的にプロデュースする仕事です。この仕事は、「食」に関する幅広い知識が求められます。授業ではマーケティングや栄養の知識、調理実習、テーブルコーディネート演習などを経て、フードコーディネーター三級を目指して学びに励みました。全国大学実務教育協会が認定する園芸療法士は、園芸をすることで人の心を癒し、身体機能の回復を図ることを目的としており、習得すべき単位的なかに園芸療法実習があります。大切に育てた成果物を調理して、「ありがとう」の気持ちですべていただくことで、自らがその体験を理解し、人を援助する視点を考えました。



人がその人らしく生きることを支えるために介護福祉士を目指す学生は、多くの科目履修、四五〇時間の介護実習とともに、国家試験対策の模擬試験や、各領域の個別指導などを何度も繰り返し、平成三十年一月二十八日、みんなで国家試験に全力で臨みました。

おたのしみ会とフィールドワーク

幼児教育保育学科は、例年十二月にI・II回生合同でおたのしみ会を実施しています。



I回生はミュージックベルと各グループの劇、II回生は全員でミュージカル「アニー」を演じました。I回生のミュージックベルは子どもと遊びBの履修者で「赤鼻のトナカイ」を演奏しました。劇は、「身体表現」の授業内でグループごとに台本を書き、役柄に合う衣装の準備やセリフを言う際の発声や身体への動き方など、丁寧に指導を受け練習を重ねていました。「サザエさん」「笑点」「美女と野獣」など演目も多岐にわたっており、工夫を凝らした

演出で客席から多くの拍手がありました。II回生は、「保育総合表現」の授業内で練習を始めました。週に一回の授業で歌やダンス、演技の練習をするのは非常に大変でしたが、空き時間に自主練習を何度も行っていました。油井非常勤講師オリジナルの台本で、笑いあり涙ありで当日は大成功でした。本学では、保育現場に就職した際に役立つようなフィールドワークを実施しています。園外保育を想定してII回生は海遊館、I回生は須磨海浜水族園へフィールドワークに行きました。それぞれ今後にかけるように、授業内で計画や振り返りを行いました。